



2024年7月12日

各 位

会 社 名 株式会社岡山製紙
代 表 者 名 代表取締役社長 宮田 正樹
(コード番号 3892 東証スタンダード)
問 合 せ 先 管理本部長 加藤 理夫
(TEL 086-262-1101)

中期経営計画策定に関するお知らせ

当社は、2024年度（2025年5月期）から2026年度（2027年5月期）を対象とする中期経営計画を策定いたしましたので、以下のとおりお知らせいたします。

1. 業績計画

(単位：百万円)

	2023年実績	2024年計画	2025年計画	2026年計画
売上高	11,511	11,500	11,600	11,700
営業利益	1,681	1,000	900	950
経常利益	1,779	1,100	1,000	1,050
当期純利益	1,157	770	700	735

2. 経営方針

1. 板紙事業、美粧段ボール事業ともに販売方針実現化による事業成長の推進
2. 人的資本経営により従業員が働きやすく、やりがいのある職場環境を目指す
3. 安全第一のもと、既存設備の生産性向上の追求（部分設備更新等）
4. SDGsの観点より、気候変動、エネルギー、資源の循環対応推進

3. サステナブル経営への取組

人的資本への投資、環境負荷低減のための取組を推進する。

詳細につきましては、添付資料をご参照ください。

※ 本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績等は今後種々の要因によって異なる結果となる可能性があります。

以 上

2024-2026年度
株式会社岡山製紙
中期経営計画

2024年7月12日



当社の事業概要（セグメント情報）

板紙事業

○中芯原紙

段ボールの内側で波形になり強度を支える部分です。

段ボールメーカーの製品用途に合わせて常に安定した品質の製品を供給し続け、当社の主要製品として中四国地区の流通に貢献しています。

○紙管原紙

紙や布、フィルム、糸などの巻き芯や図面等を収める紙筒の原紙です。

製筒加工する紙管メーカーのニーズに合わせてフレキシブルに原紙を供給できる高度な技術が求められます。



美粧段ボール事業

○美粧段ボール

青果物、電化製品、医薬品、飲料、食品などの個装箱や贈答箱といった、美粧性とデザイン性が求められるパッケージを段ボールで実現します。

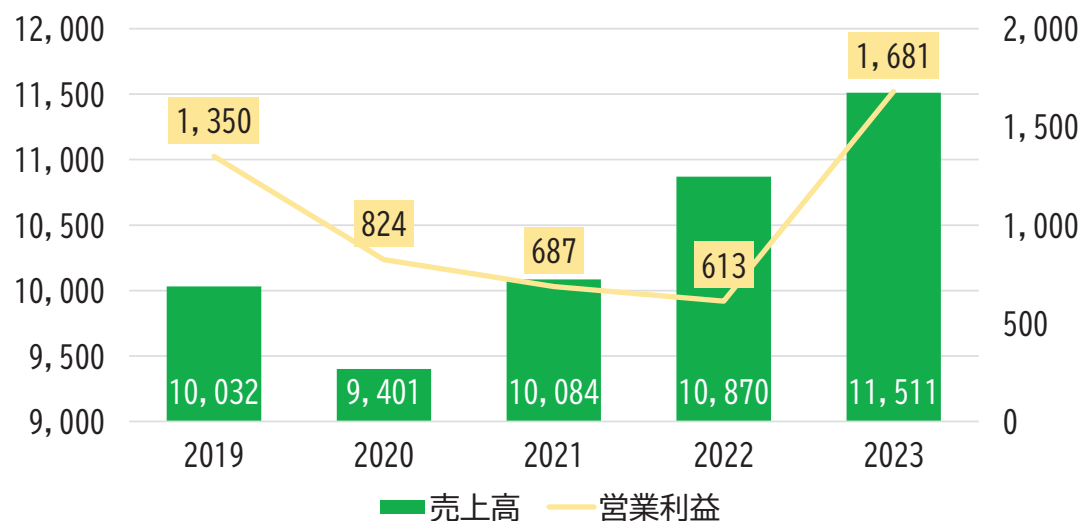
当社では美粧段ボールケースの企画、設計から製造加工までを自社で一貫して行う体制を築いており、特に2021年からは段ボールシートに直接印刷できるオンデマンドデジタル印刷機を導入したことで、事業の幅が広がっています。



沿革

- 2027 創立120周年へ
- 2021 オンデマンドデジタル印刷機稼働
- 2020 デジタル印刷機用 新工場竣工
- 2017 板紙事業でFSC認証を取得（美粧段ボール事業は2022年取得）
- 2007 創立100周年
- 2006 ガスタービン発電設備を新設
- 2000 株式店頭登録による株式公開
- 1990 株式会社岡山製紙に社名変更
- 1990 N3号抄紙機（中芯原紙用マシン）を新設
- 1973 美粧段ボール事業を開始
- 1952 2号抄紙機を稼働（紙管原紙用マシン）
- 1908 1号抄紙機を稼働（紙管原紙用マシン）
- 1907 岡山製紙株式会社設立（現：株式会社岡山製紙）

直近5カ年の業績推移（2019-2023年度）



2020年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により景気の後退・売上高の減少があったものの、それ以外では100億円の売上を確保

原燃料価格変動等の影響により増減はあるものの、
営業利益目標5億円
ROE目標5.0%
ほぼ継続的に達成できている

	2019	2020	2021	2022	2023
売上高(百万円)	10,032	9,401	10,084	10,870	11,511
営業利益(百万円)	1,350	824	687	613	1,681
経常利益(百万円)	1,408	890	755	693	1,779
ROE (%)	11.1	6.5	5.9	4.7	10.2

2024-2026年 中期経営計画 経営方針

1. 板紙事業、美粧段ボール事業ともに下記販売方針実現化による事業成長の推進
2. 人的資本経営により従業員が働きやすく、やりがいのある職場環境を目指す
3. 安全第一のもと、既存設備の生産性向上の追求（部分設備更新等）
4. SDGsの観点より、気候変動、エネルギー、資源の循環対応推進

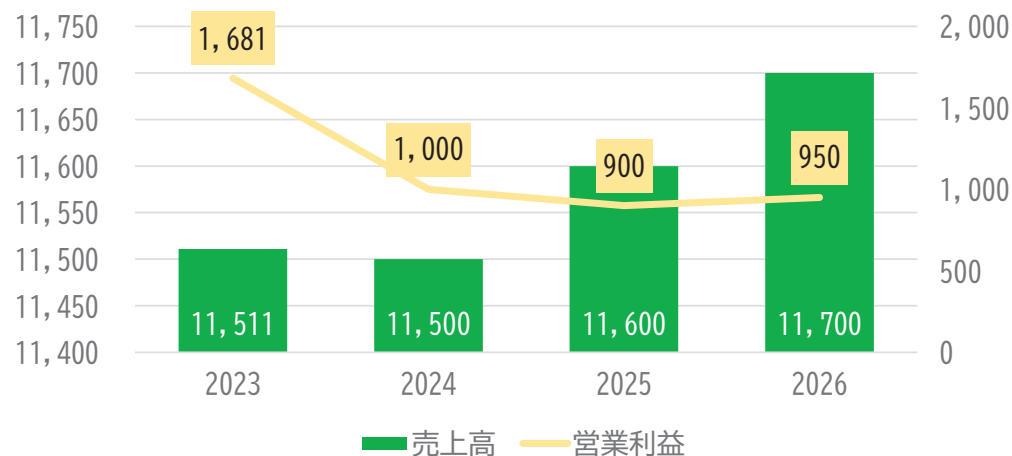
設備投資方針

既存設備の維持更新を基本としつつも、気候変動や資源の循環といったサステナビリティ対策投資や生産性向上投資（老朽化更新含む）を加速させる。

販売方針

- 中芯原紙
新規取引先・新規代理店へ門戸を広げ営業活動を行う。
また、物流問題を踏まえた納入地域の見直しを図る。
- 紙管原紙
既存紙管メーカー等との関係を深め、販売数量を確保する。
紙管以外の用途で当社品の新規使用を開拓していく。
- 美粧段ボール
継続して王子グループと連携しデジタル印刷案件の取込みを強化する。
定期的のある通販箱をターゲットに新規拡販を積極的に行う。

中期経営計画 売上高・営業利益の推移



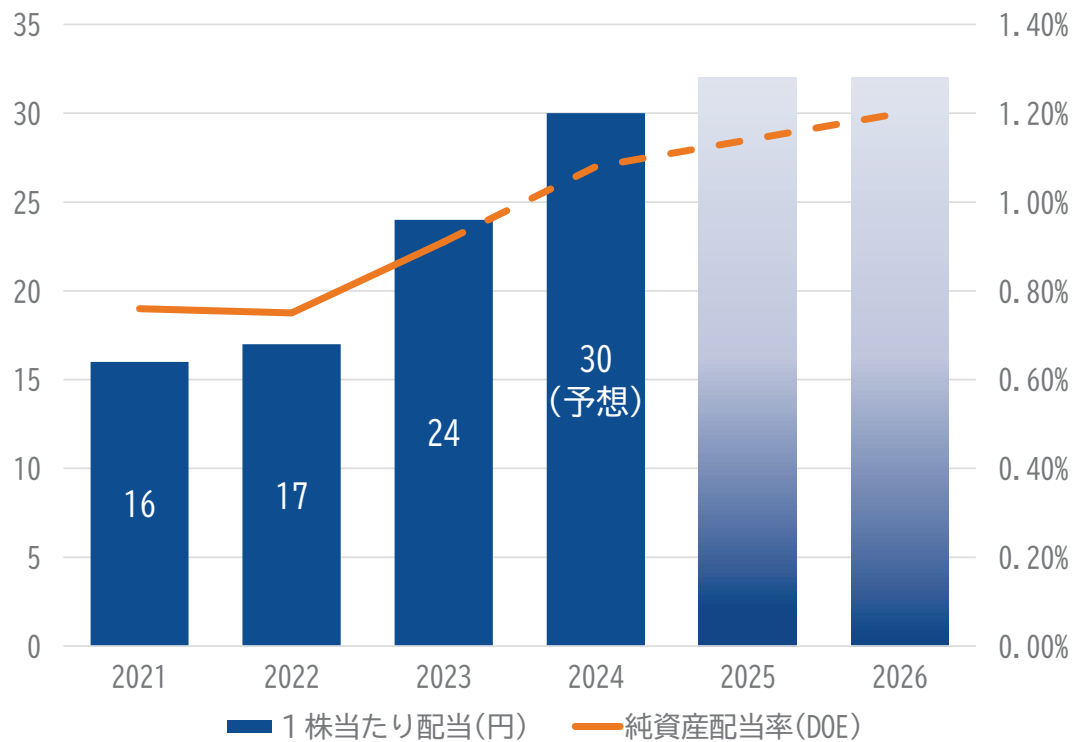
設備投資	3億円	7億円	10億円	15億円
------	-----	-----	------	------

	2023年実績	2024年計画	2025年計画	2026年計画
売上高(百万円)	11,511	11,500	11,600	11,700
営業利益(百万円)	1,681	1,000	900	950
経常利益(百万円)	1,779	1,100	1,000	1,050
当期純利益(百万円)	1,157	770	700	735

今後板紙需要が軟化することが予想される中、板紙製品販売量は2023年の水準を維持

円安基調による原燃料他諸資材の高騰や配送費の上昇など、コストアップが見込まれるため利益は減少

中期経営計画 配当の推移



安定配当の継続という基本方針と、将来の大型投資に向けた内部留保の充実とのバランスを考慮しつつ配当を実施する方針。

上記方針を実現し、株式価値の向上を図るため、今後 純資産配当率(DOE)の目安を設定。

期末株価(円)	837	897	1,399	
期末PBR	0.40倍	0.39倍	0.53倍	

サステナブル経営のための重要課題

	テーマ	マテリアリティ
E 環境	気候変動	気候変動の緩和と温室効果ガスの排出削減
	エネルギー	効率的なエネルギー利用と 再生可能エネルギーの活用促進
	資源の循環	古紙等のリサイクルによる循環型経済の推進
S 社会	人的資本・人権	人材の確保・維持・育成と働きがいのある職場環境 の実現
	労働基準	職場の安全性の確保
	サプライチェーン	持続的な原材料調達による 安定的な事業体制と環境負荷低減の実現
	顧客に対する責任	
	地域社会	地域共生と地域発展への貢献
G ガバナンス	コーポレートガバナンス	コーポレートガバナンスの強化
	リスクマネジメント	リスクマネジメントの強化
	コンプライアンス	コンプライアンスの遵守

200年企業を目指して持続的な成長を続けるために、GHG削減が喫緊の課題であると認識し、カーボンニュートラルを推進する。

人材を最優先すべき資本のひとつと位置づけ、継続的に投資を行うことで競争力を確保することを目指し、人材育成、社内環境整備に取り組む。

当社の経営理念

すべてのステークホルダーとの調和のもと、
共存の精神で200年企業をめざす

(注)本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績等は今後種々の要因によって異なる結果となる可能性があります。